

## 5年 単元名「生命のつながり メダカのたんじょう」(8時間)

### 1 単元設定の理由

本単元は、前単元「植物の成長」の学習を踏まえて、「生命」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「生命の連続性」に関わるものである。

ここでのねらいは、動物の発生や成長について興味・関心をもって追究する活動を通して、動物の発生や成長について推論しながら追究する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、生命を尊重する態度を育て、動物の発生や成長についての見方や考え方をもちつことができるようにすることがねらいである。

### 2 単元目標

魚を育て、卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ、動物の発生や成長についての考えをもちつことができるようにする。

### 3 単元の評価規準

[自然事象への関心・意欲・態度]

○メダカの成長に興味・関心をもち、自らそれらの変化や成長を調べようとしている。

○水中の小さな生物に興味・関心をもち、自ら調べようとしている。

○卵の内部の変化の様子に生命の神秘さを感じ、それらの生命の連続性を調べようとしている。

[科学的な思考・表現]

○メダカの発生や成長とその変化に関わる時間を関係づけて考察し、自分の考えを表現している。

[観察・実験の技能]

○メダカの卵を、双眼実体顕微鏡などを操作して計画的に観察している。

○受精卵から子メダカまでの変化の様子を観察し、その過程や結果を記録している。

○水中の小さな生物を、顕微鏡などを操作して観察している。

[自然事象についての知識・理解]

○メダカには雄と雌があり、体形から見分けることができることを理解している。

○メダカの卵は、日が経つにつれて中の様子の変化して、かえることを理解している。

○魚は、水中の小さな生物を食べ物にして生きていることを理解している。

### 4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1 ・ 2	○メダカを飼育するために必要なことを資料などで調べ、話し合う。 ○話し合ったことをもとに、メダカを飼育するための水槽を作る。	○クラスのメダカを飼育することを意識させ興味をもたせていく。
3 ~ 6	○メダカの卵の成長の仕方を予想する。 ○解剖顕微鏡と双眼実体顕微鏡の使い方を知る。 ○メダカの卵の様子を継続して調べ、記録する。	○十分な資料などを用意し、各児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。
7 ・ 8	○池にはメダカの餌になる小さな生物がいるかを予想する。 ○水の中の小さな生物を採取して、顕微鏡で観察する。	○顕微鏡で観察する際に各児童が確実に観察することができるように配慮する。
外部連携 / 教材等 葛西臨海・環境教育フォーラム		